

まえがき

本書は“ビートルズ作品英和辞典（増補版）”（2016年5月発行）を補強したものである。

“ビートルズ作品英和辞典”（2009年10月発行）に先立ったのが、“ビートルズ英語読解ガイド”（2007年8月発行）、“ビートルズ作品読解ガイド”（2008年1月発行）、そして“ビートルズ英語文法ガイド”（2008年11月発行）。どれも、世に出回る歌詞の聴き取り間違い、誤解、誤訳を正し、The Beatles の、音楽のみならず、文芸的価値が正当に評価される下地を作ることを意図していた。

世にはびこっている誤対訳の理由はいくつかある。歌詞の聴き取り間違い、不十分な文法知識、幅広い英語使用経験の欠如、歌詞の背景についての情報不足などである。しかし一番の理由は、訳者が英和辞典を使いこなせていないため、という印象を私は受けている。訳者が分析努力を怠るのは批判されるべきことではあるが、既製の汎用辞書を利用するには困難と限界があるのも事実である。小辞典や中辞典では適訳らしきものが見つからず、大辞典では候補が多すぎて、結局、訳語を慣れや先入観で選択してしまいがちのようだ。

このような問題を解決して、前三作を補完する目的で出版したのが“ビートルズ作品英和辞典”だった。シリーズ企画の集大成だったと言える。と言うのは、三作の執筆にあたって、私は188曲の歌詞に使われている言葉ひとつひとつについて、前後の語との関連と意味を分析。その分析作業を編集した結果の産物だったからである。分析は、冠詞や前置詞を含むすべての単語について、用いられている文脈のすべてにおいて行い、計25,000箇所にとんだ。

増補版では、バンド解散後の THE BEATLES ANTHOLOGY プロジェクトなどにおいて正式発表されたナンバーなど、26曲を分析対象に加えた。合わせて214曲。総分析箇所は約28,000を数えた。

本POD版では、さらに、2019年発売の ABBEY ROAD デラックス版に収録された Goodbye を分析対象に追加。また、全体に亘る見直しを行った。その結果、分析対象曲数が215（388～393ページ参照）へ、総分析箇所が約28,100へ、見出し語の数が1,979から1,985へ、収録用例が延べ約7,900から延べ約8,100へ、正味ページ数が368から379へ、それぞれ増えている。

ビートルズ作品英和辞典（POD版） 内容見本 著作権保護コンテンツ

pants（ズボン）、milk（乳）、roof（屋根）など、日常生活に関わる基本的な単語であっても、ビートルズの歌詞に使われていないものは、引き続き、収録していない。他方、収録語については、ビートルズが使わなかった用法や意味も示すようにしている。これによって、本書利用者が得る知識の裾野が広がるであろう。

収録した用例は、前述のように、延べ8,100あまり。ビートルズの歌詞からのものが延べ6,900弱、それ以外のもので1,200強である。

これで、日本のビートルズファンは、ビートルズの歌詞のほぼ隅々を正しく解釈できることになる。理解できない点があるとしたら、それは読み手ではなくて、書き手の力量不足である。もっとも、あえて意味不明にしてある部分も多々あるようだが。

発音には触れていない。その理由は、本書はビートルズについての著作であり、収録するすべての単語について、ビートルズの発音をレコードで聞くことができるからである。ちなみに、歌唱に際する彼らの発音は、英国または米国における標準的な発音に慣れている人が違和感を受けないものである。特にマッカートニーは各音を丁寧に発している。個々の単語が有する発音の細かなバリエーションを確認するには、既製の汎用英英もしくは英和辞典などに掲載されている発音記号を参照されたい。

しかしながら、ビートルズによる英語の発音を体系的に学習、研究することを蔑にはできない。そこで最近になって、私は“ビートルズ英語発音ガイド”（2019年3月発行）を著した。英語の音素と字母の相関も詳しく解説している。本書ならびに“ビートルズ英語文法ガイド”（増補版）と並行して活用してもらえれば、著者として大きな喜びである。

他方、本書では、従来型の辞書より活字を大きくして、ゆとりのスペースを取っている。一つの言葉について調べるための道具のみならず、読むことのできる辞書を目指したからである。

また、見出し語と出典を制限した結果、語義ごとに比較的多数の用例を載せている。繰返しも少なくない。例を挙げると、Let it be. という文例は、be、it、let、whisper の四箇所に登場する。一つの文を複数の点から考察することを容易にするものである。

ビートルズ作品英和辞典（POD版） 内容見本 著作権保護コンテンツ

ここまでは利点を強調したが、本書には限界がある。用例の作者に対して意味の確認を求めることが不可能ということである。特に間投詞、接続詞 and、定冠詞の意味は解釈し難い場合も少なくない。なかには、メロディーに乗せるために加えたと思われる定冠詞もある。私の解釈に自信がない場合は、凡例の中で述べるように、?を付記しているが、それ以外にも誤りの可能性があることを承知して欲しい。

本書について意見などがあれば、お聞かせ願いたい。誤謬の指摘や異論は、特に歓迎する。

2021年2月
秋山直樹

凡例

I 見出し語

ビートルズのオリジナル作品の歌詞とアルバム名に登場する言葉だけを、太字を用いて、アルファベット順に配列した。語数は 1,985。

名詞の規則的な複数形および規則動詞の活用形は含めていない。

複数の綴り方が考えられるものは、**all right** = **alright** のように、両方を記した。

II 品詞

《名詞》のように、二文字を《 》で囲んで示した。

分類は次のとおり：《動名》（動名詞）、《固有》（固有名詞）、《名詞》（その他の名詞）、《人代》（人称代名詞）、《指代》（指示代名詞）、《不代》（不定代名詞）、《疑代》（疑問代名詞）、《関代》（関係代名詞）、《定冠》（定冠詞）、《不冠》（不定冠詞）、《所形》（所有形容詞）、《指形》（指示形容詞）、《疑形》（疑問形容詞）、《形容》（その他の形容詞）、《自動》（自動詞）、《他動》（他動詞）、《助動》（助動詞）、《疑副》（疑問副詞）、《関副》（関係副詞）、《副詞》（その他の副詞）、《前置》（前置詞）、《接続》（接続詞）、《間投》（間投詞）。

名詞の不規則複数形、形容詞の変化形は、《変化》で示した。不規則動詞の活用形は、《活用》で示した。それぞれ、[名詞 child の複数形]、[形容詞 bad の比較級]、[動詞 be の一人称単数現在形] のような説明を直後に配した。なお、could、might、should、would は、それぞれの独立用法を考慮して、《変化》とせず、《助動》を充てている

加えて、《略語》（BBC など）、《短縮》（ain't など）、《接尾》（'s）、《発音》（gonna など）、《仏語》（フランス語の単語）、《西語》（スペイン語の単語）という項目によって、すべての言葉を分類した。

III 語義

主な語義を ① ② ③ … の番号で大別し、訳語を示した。ビートルズ作品に使われていないものであっても、有用な情報と思われるものは含めてある。

前置詞については、訳語のみならず、本来の意味を [] 内に示した。

IV 用例

ビートルズによる用例がある語義については、適例を載せた。歌詞から抜粋した延べ 6,900 弱の用例を挙げ、その和訳を () で括って示し、作品番号を付記してある。次のような具合である： I love only you. (私が愛しているのはあなただけよ、僕が好きなのは君だけだ) [008, 138]。作品番号は本書の姉妹書で用いたものと同じで、本書の 388~393 ページにも一覧表を掲載してある。

詳細を掲載しきれない用例については、例えば次のようにして、該当箇所を含む歌の作品番号を示した： 他例 [045, 067, 104, 107, 138, 168, A10]。

具体的な文例の代りに構文の例を示す場合がある。この際は、主語 (subject) (意味上の主語を含む) には S、目的語 (object) には O、補語 (complement) には C、修飾語 (modifier) には M を充てた。目的語が二つある時は、直接、間接に関わらず、先行するものを O₁、後のものを O₂ とした。

作品番号に + が付いている用例は、ダブル・ミーニングと考えられるものである。同じ見出し語の別の語義を当たると、片割れが見つかるはずである。

作品番号に ? が付いているものは、作詞者の意図した意味が不明確であることを表す。多くの場合、同じ見出し語の別の語義で、別の解釈を示してある。

?? は、実際に歌詞の一部として使用されているかどうか不確実であることを表す。

作品番号に * が付いているものもある。これは意味に疑問はないのだが、複数の文法解釈が可能であることを表す。< > で括った説明を近くに施してある。

ビートルズ作品に用例が認められない語義についても、紙面が許せば、用例を示すようにしてある。このために 1,200 を超える用例を作成した。

V 用法

用法の説明を [] で括って示した。[英国]、[口語]、[俗語]、[卑語]、[隠語]、[集合的に]、[限定]、[叙述]、[補語を伴って]、[make+目的語+原形不定詞] の構文で使役を表す]、[目的語となる名詞節を導いて]、[文語]、[非標準]、[誤用] などがある。